

科目名	世界史B	学 年	2年	コース	全	単位数	2	担当者	
-----	------	-----	----	-----	---	-----	---	-----	--

## 1 目 標

古代から近代の始まりにいたる世界の歴史の展開を日本の歴史と関連付けながら理解する。また、諸地域世界の接触や交流に着眼し、歴史的考察力を養う。そして、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

## 2 到達目標

身の回りの事柄（衣食住・余暇・スポーツ等）の中の世界史的観点を学習することで世界史を身近に感じたり、日本史との接点をとらえる学習

時間意識と空間意識が時代や地域により異なることに気づく。

地域世界（西アジア、地中海世界、南アジア世界、東アジア・内陸アジア世界、イスラム世界、ヨーロッパ世界）の形成を学習する中で、自然と共生してきた人類が、文明化推進のため自然破壊をもたらすことに気づく。

## 3 成績評価の方法

定期考査や提出物、授業への出席状況や授業態度等を総合的に評価する。

## 4 学習者へのメッセージ

中学校での歴史とは異なって、各国の歴史を学習していく。ヨーロッパ史観から脱却し、アジアに生きる日本人として歴史を見つめてほしい。

コツコツ努力型が最後は笑う。人物名とその行動を覚えるだけではダメだ。なぜその行動を選択したのか、その人物の生きた時代背景を考える。授業の一こま、一こまをきっちり自分のものにしていくこと。

中学校式ノートの取り方から卒業しよう。授業中、口頭で言った教師の話の中に重要なポイントがたくさんある。1時間の授業に教科書2ページ～4ページぐらい進む板書をしていては間に合わない。だから口頭での説明が多くなる。自分が知らない事をきっちりノートにとる。そこから世界史のノートづくりの出発だ。

歴史は“たて”、“よこ”のクロスワードパズルだ。まず、あせらないこと。“たて”=各国史の流れが理解できてはじめて“よこ”=時代（世紀）がわかる。3年生になって教科書をほぼやり終える頃、パズルが完成する。だから授業で学習する1時間、1時間を楽しむこと。“たて”が基本！

## 5 使用教材

教科書「詳説 世界史B」(山川出版社)

副教材「 図説（未定）」( ) 「世界史B用語集」(山川出版社)

## 6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [ ] [ ] [ ]

課 題

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 、 5 、	世界史への扉 曆・地図 余暇・スポーツ 西アジア・地中海世界	人間生活との深い関わりを把握する。 余暇が起こった歴史的背景を理解 オリエント文明とイラン文明の理解
1 学 期 中 間 考 査		
6 、 7	南アジア世界の形成 東アジア・内陸アジア世界 の形成	宗教と社会制度を中心とする世界の理解 農耕文明と遊牧国家の形成との関係を理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 、 10 、	東アジア・内陸アジア世界 の形成 イスラーム世界の形成と拡大	周辺諸国との関係と春秋戦国時代や秦・漢帝国の 成立について アラブ人によるイスラーム帝国の成立
2 学 期 中 間 考 査		
11 、 12	ヨーロッパ世界の形成と変動 内陸アジアの動向と 諸地域世界 アジア諸地域世界の繁栄と成熟	キリスト教中心のヨーロッパ世界の誕生 ユーラシア諸地域の再編に影響した 内陸アジア・諸民族の理解 明・清帝国と日本の関係を理解 東南アジア海域とイスラーム世界のかかわり
2 学 期 期 末 考 査		
1 、 3	ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ヨーロッパ・アメリカの変革と 国民形成	ルネサンスや宗教改革等を通じての ヨーロッパ世界の理解 ヨーロッパ・アメリカの経済政治に影響を与えた 産業革命と市民革命の学習
学 年 末 考 査		